

日南看護専門学校 単位認定試験 問題

科目	老年看護学方法論 1	講義時間数	30/30時間	配点	70/100点
講師名	藤田 めぐみ	試験月日			
学籍番号		学生氏名			

【問題1】 次の問いで正しいものには○、間違っているものには×をつけなさい。（1点×20）

- ①過活動膀胱では、頻尿や尿失禁がみられる。
- ②前立腺肥大症は反射性尿失禁の原因となる。
- ③要介護が低いほどPEMの発症率は高くなる。
- ④片麻痺のある高齢者は健側側に顔を向けて嚥下すると良い。
- ⑤老化に従い嗅覚の閾値は低下する。
- ⑥霧視は老人性白内障の主症状の1つである。
- ⑦徒手筋力テストは6段階評価のテストである。
- ⑧老年期の筋力低下は特に下肢で起こりやすい。
- ⑨高齢者の場合、休息のため食後はすぐに臥床させる。
- ⑩重度の嚥下障害のある高齢者は90度ルールでの食事がよい。
- ⑪高齢者の腹圧性尿失禁は女性よりも男性で多く見られる。
- ⑫老年期は睡眠が深くなる傾向がある。
- ⑬加齢により減少しやすいのは瞬発力を発揮する速筋である。
- ⑭循環機能が低下した高齢者へは半身浴は行わない。
- ⑮高齢者の便秘には下剤の使用が第一選択となる。
- ⑯入院中は趣味や娯楽などの活動なるべく控える。
- ⑰運動器の障害によって移動などの日常生活に支障が現れたり、要介護状態になることをロコモティブシンドロームという。
- ⑱加齢に伴っておしゃれへの関心度は低くなる。
- ⑲失語症の高齢者との会話では五十音表の活用が有効である。
- ⑳高齢者を対象としたレクリエーションの基本的な考え方は機能低下を防ぎ現状を維持することである。

【問題2】 高齢者が転倒しやすい内的・外的要因の観察項目についてそれぞれ3つ記入しなさい。（3点×3）

内的要因	観察項目
①加齢変化	

外的要因	観察項目
②歩行補助具や転倒防止設備に関するもの	
③高齢者自身に関するもの（履物）	

【問題3】次の事例を読んで設問に答えなさい。

N市に住む“一郎”さんは、85歳男性。昔、雑貨店を経営していた。昔から、地域の区長をするなど人から頼られる存在であった。10年前に妻を亡くしてから一人暮らしである。2年前に自宅で転倒し大腿骨頸部骨折で入院の経験がある。同年代の仲間と釣りに出かけたり、月1回の高齢者クラブへ参加するのが楽しみだった。

今回、脳梗塞による右半身麻痺があり近くの総合病院に入院。軽度の麻痺が残ったが、杖歩行が可能となり何とか自力でトイレに行けるようになったため退院となる。本人は自宅での生活を希望したが、自宅は段差が多く一人暮らしは困難とのことで、S市の息子夫婦と同居することになる。息子夫婦は共働きである。息子夫婦のマンションは4LDKでバリアフリー設計だが、“一郎”さんの部屋はトイレから離れた奥の部屋となっている。

手すりを使用し、自力でトイレまで移動していたが、激しい尿意が突然生じ、トイレに間に合わず尿を失禁することが度々あった。また、夜間トイレに起きることが頻回であった。息子夫婦は話し合い、そんな“一郎”さんに紙おむつを準備することにした。

息子「夜中に何度も起きると父さんも疲れるだろうし、尿を漏らした時の後始末が大変だからオムツを使ってよ」

嫁「義父さん、歳をとると仕方ないことですから、気にしないでくださいね」

一郎「オムツか… 情けないな… でもお前たちにこれ以上迷惑をかけても申し訳ない…」

(2週間が経って) 一郎さんの表情は暗く口数も少なくなった。尿失禁の頻度が増え、自力でオムツを交換したりトイレに行こうとする姿はほとんどみられなくなった。1日のほとんどを寝て過ごすようになった。

①一郎さんの尿失禁のタイプは何でしょう？ (5点)

②失禁やオムツの使用は、一郎さんにどのような影響を及ぼすと考えられますか？ 3つ答えなさい。

(3点×3 計9点)

③一郎さんの尿失禁に対して、可能と思われる改善策を2つ答えなさい。(3点×2 計6点)

【問題4】転倒予防のための基本動作に対する見守りと援助について（ ）に適する言葉を記入しなさい。（2点×4）

- ・リハビリが進むと自分の身体能力を（ ① ）して無理な行動を起こすことがあるので自身の身体機能を認識させる必要がある。
- ・動くことの意欲を低下させないように配慮しながら（ ② ）を行う必要がある。
- ・身体能力に見合った（ ③ ）な動作を支援する必要がある。
- ・身体機能や障害の状態を把握し高齢者の（ ④ ）に合わせて介助を行う必要がある。

【問題5】清潔の看護について（ ）に適する言葉を記入しなさい。（1点×10）

- ・入浴温度は（ ① ）とし、長時間の入浴は避ける。
- ・洗剤は（ ② ）・（ ③ ）の物を使用する。
- ・洗体は（ ④ ）素材のタオルで行う。
- ・衣服の素材は化学繊維や毛織物を避けて刺激の少ない（ ⑤ ）を選択する。
- ・かゆみのある部分は搔かずに（ ⑥ ）。
- ・搔破が治まらない場合は（ ⑦ ）や直接患部に触れないように（ ⑧ ）を着用する。
- ・加齢による温度感覚の変化を理解して行動を観察し（ ⑨ ）や（ ⑩ ）の調整を行う。

【問題6】高齢者の栄養摂取の実態と変化をもたらす誘因・要因を記入しなさい。（3点）

「高齢者の栄養摂取の実態」

「原因・誘因」

【問題7】高齢者が経験しやすい内的・外的要因の観察項目についてそれぞれ3つ記入しなさい。（3点×3）

内的要因	観察項目
①加齢変化	
外的要因	観察項目
②歩行補助具や転倒防止設備に関するもの	
③高齢者自身に関するもの（履物）	

科目名	老年看護学方法論 1	講義時間数	30/30時間	配点	70/100点中
講師名	藤田 めぐみ	試験月日	令和 7 年 6 月 2 6 日 (木)		
学籍番号		学生氏名			

(1点×20)

【問題 1】 17	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	

【問題 2】

(3点×3)

①内的要因	②③外的要因	観察項目
①加齢変化	3	① 運動機能低下から、階段あがる時にフラクはとれているか。 ② 危険察知能力の低下から、曲がり角や障害物に注意を払う様子はあか。 ③ 平衡感覚が失調するところから、歩行時にフラクはとれているか。
②歩行補助具や転倒防止設備に関するもの	3	① 杖や歩行器は合っているか。 ② 使用方法は正しいか。 ③ 手すりや固定されているか。
③高齢者自身に関するもの（履物）	3	① 靴のサイズは合っているか。 ② 歩きやすい靴を選んでいるか。 ③ かかとのある靴を履いているか。

【問題 3】

① (5点)	5	切迫性尿失禁
② (3点×3)		自尊心の低下
		人間関係・社会交流の狭小化
	9	自立性・活動性の低下
③ (3点×2)		トイレに近い部屋へ移動する、
	6	暖かい着る衣服を着用する、

【問題4】 (2点×4)	①	②	③	④
	過大評価	見当り	正確	ハース

【問題5】 (1点×10)	1	2	3
	中温浴 (38~40℃)	弱酸性	低刺激性
	4	5	6
	やさしい木綿	木綿	かみそり用タオル
9	7	8	9
	保湿クリームを塗布すること	手袋	環境
	10		
	衣類		

【問題6】 (3点)	＜栄養摂取の課題＞ - 食生活の改善 - 糖質・脂質・たんぱく質の摂取量の調整 - 総エネルギー、たんぱく質、カルシウム、鉄分の摂取量が低下 ＜原因＞ - 高齢者の独立や定年退職 など、社会的役割の喪失によって、
---------------	--

加齢変化レポート	機能低下：小テスト	おむつ体験・レポート	
4 /6	1 /5	5 /5	5 /5
排泄：小テスト	排泄：演習	筆記テスト	
5 /5	4 /4	62 /70	

合計
 /100